

コロキウム20周年

神 原 正 樹

20th Anniversary of Colloquium

Masaki Kambara

第20回記念のコロキウムおめでとうございます。

深井先生が創設された深井保健科学研究所において月1回の研究会、年1回のコロキウムを継続して開催されてこられたことに敬意を表す。開業医の先生が幅広い公衆衛生に関連する内容の研修会を開催され、また、ヘルスサイエンス・ヘルスケアの学術雑誌を刊行されてこられましたことは驚嘆に値する偉業である。日本における公衆衛生学は、大学でMaster of Public Healthの学位を取得できる大学院が皆無でありましたのに（最近では全国で10校あまりできて）、とくにこの分野の若手から有識者までのネットワークの拡大を図られ、その人材育成がこの分野の研究を支えることに繋がっていることは大きな功績である。

日本は課題先進国と言われ、数ある課題に対し近視眼的に対処してきたため、OECD諸国の中での各指標においてランクを下げている状況にある¹⁾。歴史的あるいは俯瞰的視野の欠落や第4次産

業革命への対応不足さらにSDGsへの地球メンバーとしての役割貢献欠如など閉塞感に覆われている。今回みまわれたCOVID-19感染症により、これらの課題がより明確になったことから、新たな道に日本をギアチェンジするチャンスでもある。その際、公衆衛生的視点からのアプローチが重要であることは論を待たない。しかし、いまだ日本でパブリック的理念、戦略、提言等は影が薄い。そこで、深井科学研究所の研究会やコロキウムにおける議論や研究が土台となり、サイエンスに基づくエビデンスを探索し、社会をWell-beingにしていくことに繋がることに疑いはない。

この20周年にあたり、どんな言葉を送るかを考えた際、まず、令和の話をさせてもらったので、ここでは省かせていただく。深井先生とは、いろいろと幅広い話題や言葉について議論してきましたが、経済学者の宇沢弘文先生の社会的共通資本²⁾を紹介されたことを思い出します。世界的経済学者の宇沢先生は、社会医的共通資本が一つの国ないし特定の地域に住むすべての人々が、ゆたかな経済生活を営み、すぐれた文化を展開し、人間的に魅力ある社会を持続的、安定的に維持することを可能にするような社会的装置を意味すると言われ、医療、教育、文化・芸術などは、経済の変動により、影響を受けるものではなく、社会が成り立つ基本的なものであるとされている。これを言い換えると「口腔（歯）の健康は、重要な人間共通資本である」という言葉をコロキウム20

【著者連絡先】

〒550-0015 大阪府大阪市西区南堀江1-10-11
西谷ビル本館406号

神原グローバルヘルス研究所

神原正樹

TEL&FAX：06-6539-5477

E-mail：mkamba096@gmail.com

受付日：2021年12月14日 受理日：2021年12月17日

コロキウム20周年

周年に際してお送りしたいと思う。そして、「Well-being Dentistry and Oral Health」を目指して、この研究所、研究会、雑誌、コロキウムが益々発展していかれることを祈念している。

文 献

- 1) OECD Data Insights ; <https://www.oecd.org/coronavirus/en/data-insights/> (access: 2021.11.29)
- 2) 宇沢弘文；社会的共通資本：岩波書店（岩波新書），東京，2000.